

# 入院医療中心から地域生活中心へ ～精神科訪問看護・指導における院内多職種による新規開拓への取り組み～

鷹岡病院 水野拓二 ○小山隆太 川島茉己 川村明広 伊東宏祥 鈴木千代乃

## 要旨

鷹岡病院（以下、当院）社会復帰部では令和3年度より多職種にて訪問看護マニュアルの改定や、訪問看護数、デイケア等の利用増に向けた各種取り組みに着手していた。令和4年度の事業計画での重点項目の一つに「訪問看護数の増加」が示された。このことから、部署での取り組みを事業計画に照らし合わせ遂行するための部署内での取り組み及び、成果について報告する。

## 1 取り組みの内容

令和4年度の当院事業計画に基づき、主な取り組みは4点に整理される。①社会復帰部のミーティング（以下、MT）において令和4年事業計画への対応と今後の方策について協議。部署内の各課より人選したワーキングチーム（以下、WT）を発足し、実務にあたることを確認。WT担当課長を決定し、各課での人選を各課長へ依頼。②社会復帰部の会議にてWTの目的等を共有。WTメンバーを発表し、ミッションとして「訪問看護の対象者の洗い出し」の期日を設定。後日のMTにて活動内容を報告してもらうことを共有。WT会議を定例化。「訪問看護の新規対象者の洗い出し」を作業開始。リスト作成。③完成したリストをMTにて共有。WTでのリストを用いた活動を承認。WTより主治医等へ個別の働きかけと了承された患者および家族等へ働きかけを実施。経過より退院前訪問看護の微増および各医師より従来の専門看護師への指示箋も増加。④各専門職等での退院前訪問及び訪問看護・指導を開始。その後、専門看護師への移行や多職種訪問につながり、退院前訪問、訪問看護件数が増加した。

## 2 まとめと考察

取り組んだ成果として件数の増加につながった他に、専門看護師以外の部署内職員における

訪問看護・指導の導入の意味や価値、得られる効果など共有、理解につながった。そのため部署全体で改めて訪問看護・指導の導入の意味や価値、効果について再認識と共有ができた。

## 3 今後の課題

今回の取り組みを通して改めて訪問看護・指導について考える機会を持つことができた。多職種で協議を進め、協働で実践を積み重ねる中で単独での実践は気づけない新たな問題、課題なども散見された。現在の取り組みを社会復帰部内での取り組みで終わることではなく、今後は病棟・病院全体で医療機関が行う生活支援の一部としての「在り方」という新たな視野も含め、継続的に取り組んでいきたい。

## 倫理的な配慮について

本発表を行うにあたり、院内で承認を得ている。